

人間情報科学科・教育実践学研究室 浅田 匡



【研究室概要】

本研究室は、教育工学の中でも学校学習や教師教育に主眼を置いており、主に現場との共同研究を行っています。関連する学会は、国内では日本教育工学会、日本教育心理学会、教育方法学会、国際学会ではBritish Education Research Association (BERA)、European Educational Research Association (EERA) です。また、研究だけでなく、常に様々な活動を通じてよりよい学校のあり方を考え、毎週小学校でゼミ活動を行っています。

現在、学部9名（3年生4名、4年生2名、5年生3名）、修士4名（1年生1名、2年生3名）の計13名が所属しています。教職課程を取っている学生は4名で、様々な角度から教育に関心をもった学生が集まっているのが特徴です。

【ゼミ活動】

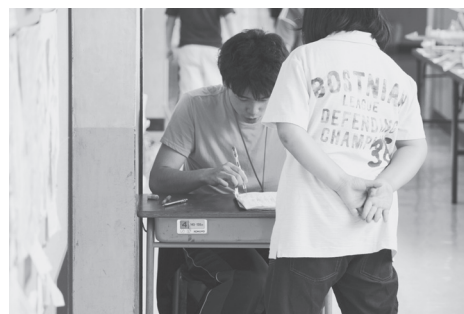
・小学校での学生ボランティア活動

毎週木曜日、地域の小学校と連携した教育ボランティア活動を行っています。低・中・高と定められた学年に1年間継続して入らせていただくことにより、学校現場における問題を身近に捉え、解決策を導く一員となることを目指します。

具体的な活動としては、授業で児童からの質問に応じる他、とりわけ支援の必要な児童への個別指導、宿題の丸付け、実験や実習の補助などがあります。また、活動後の反省会では、観察した児童の学習態度や理解度を学生・教師間で共有し、今後の指導や活動方針に役立てています。主要科目の他にも、様々な場面でボランティア活動に取り組んでおり、今年度は運動会のお手伝いや「町探検」などの校外学習にも参加させていただきました。

さらに2010年から、児童の学力向上および自主性を育むことを目的とした“チャレンジ活動”と呼ばれる学校の取り組みに関わらせていただいています。この活動は、児童の習熟度に合わせたプリント学習形式の活動であり、準備から実施に至るまで、例年学生が協力させていただいています。昨年度には、所沢市の市長訪問が行われ、チャレンジ活動に対してよい評価をいただきました。

このような学校現場と密に関わる活動を通じて、学生が実践の現場から学ぶだけでなく、大学機関と地域社会との連携を目指し、子ども達にとってよりよい教育を考えています。



チャレンジ活動の様子

・学習内容（学部ゼミ）

学部ゼミはボランティア活動が終わり、児童たちが下校した後、小学校にて行います。大学院生も学部ゼミに参加するのが特徴で、大学院生とともに学習できることが学部生にとっても良い影響を与えています。学部ゼミは幼稚園から大学までの学校教育に関する論文を読み、担当者が発表し、そのテーマについて全員で討論していくという形式を取ります。「教育心理学研究」「教育工学会論文誌」「発達心理学研究」「教育経営学会紀要」などで教育に関してできるだけ広い範囲の論文を扱っています。ゼミでは「どう考えたのか」を重視するので、単にレジュメを作るだけでなく、論文を読んで感じた自分なりの意見を述べることを求めます。自分なりの意見を考えるときに役立つのが小学校でのボランティア活動で、そこで体験した個々の事象を通して学部ゼミで扱う研究内容への理解を深め、今度はゼミで得た理論、知見をボランティア活動の中で実践していくという良い循環が生まれています。教育を扱う学問の問題点として、理論と教育現場における実践の乖離が挙げられますが、理論と実践の融合を目指す「教育実践学」を探究し、さらには人間科学部で教育に関する研究を進めていく意味についても理解を深めています。

・学習内容（大学院）

大学院では、教師による実践の理論構築を図るとともに、理論が実際の教育現場にどのように役立つかを探究することを通して、理論と実践を往還させながら学校教育を考えていきます。

今年度の院ゼミでは、毎週1回、理論と実践の往還と

研究室だより

して有名な、アクション・リサーチに関する最新の文献や、British Educational Research Journalの論文の輪読を行い、それらの内容を基にディスカッションを行っています。また月に1回、所沢市の小学校の先生方と一緒に勉強会を行い、院生が発表したTeaching and Teacher Educationの研究内容を基に、海外の研究的知見が日本の小学校にどのように適用可能であるのかについてディスカッションを行っています。その他にも、研究に関する理論的背景を学ぶために、他大学の博士課程の院生と合同でシステム理論について勉強会を行うなどして教育を総合的に学んでいます。

院生はこれらで学んだ内容を基に、関心のあるトピックを選択し、修士論文のテーマを決めます。具体的な研究課題としては、「生徒の学習成果に影響する教師の知識に関する研究」、「教師と学生サポーターの協働が児童に与える影響の実証研究」、「授業での相互的意思決定過程における教師の意味形成の機能に関する研究」、「教師による授業認知と省察に関する研究」、「教職経験による教授ストラテジー生成の比較研究」等があります。

・夏合宿

2013年度の夏合宿では神戸大附属の幼稚園と小学校を訪問しました。幼稚園では、園児が遊んだり幼稚園の先生と話したりする様子や、園内の取り組みを見学しました。小学校では、実際に授業の様子を見学し、様々な授業を見ることで、それぞれの教師のカラーを自分達の目を通して学びました。また、それぞれ見学の中で撮影したビデオや写真を用い、合宿後に各自で考察も行いました。

例年、合宿に向けて学部生から院生まで混ざってグループ課題に取り組みます。2013年度は2つのテーマについて合宿で課題発表を行いました。1つは「教師のわざの抽出」をテーマに、グループに分かれて過去の授業動画から教師のわざを抽出し、分類しました。もう1つは「ボランティア活動のタイプ分類」というテーマで、これまでのボランティア活動のレポートから活動を分類し、活動の現状と課題について考えました。合宿でグループ毎に課題発表を行い、全体でディスカッションをすることで、考えがより深まります。

また、学びの合間に小学校の体育館をお借りしてゼミ生全員でスポーツ大会を行ったり、観光したりと、毎年充実した合宿になっています。

・サンディエゴ大学の学生との交流

ゼミ活動の一環として、2011年からサンディエゴ大学の学生たちと交流を行っています。サンディエゴ大学の学生が日本を訪れた際は、ボランティアに携わっている小学校で国際交流授業をしてもらったり、ゼミ生とともに授業研究をしたりします。また、学生同士でディスカッションをすることで互いの教育や学校の仕組みを学ぶことで考えを深めることができます。

こちらからは毎年有志でサンディエゴ大学に訪問しており、アメリカの小学校の様子や大学内を見学させていただくだけでなく、研究発表や日本におけるデジタル教科書の紹介など積極的に意見を交換することができる場を設け、互いが学べる環境を作ってきました。

一方で、発表会が終わった後にみんなで食事をとったりパーティーをしたりと、お互いの理解をより深めながら、友人としても良い交流を続けています。



サンディエゴ大学との合同授業研究

【略歴】

大阪大学人間科学部、同大学院人間科学研究科博士前期課程修了、大阪大学人間科学部助手、国立教育研究所（現国立教育政策研究所）研究員、神戸大学発達科学部助教授を経て、2002年より早稲田大学にて教育研究活動を行っています。現在は、教師のわざの探究、子どもの自己発達と学校教育との関係、学校と大学との連携などを研究テーマとしています。